



今回は、一般就労をめざす障がい者の就労移行支援事業(働きたい人が働くための準備支援)を行っている事業所「ふらっと・つつ」の井谷圭さんと、北川ゆかりさんから、お話を伺いました。



社会福祉法人聖マッテヤ会
ふらっと・つつ

ふらっと・つつで行っている就労移行支援事業について教えてください。

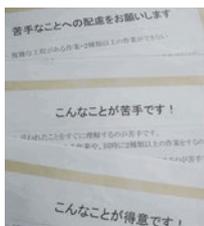
ふらっと・つつでは、障がいがある人が働くための職業訓練を行うと共に、ご本人の特性を見極め、一般企業等への橋渡しをしています。また、雇用開始後も企業訪問や面談を行い、働き続けることができるように最長3年間の就労定着支援事業も行っています。



井谷圭さん

就労予定の企業には、職業訓練の中でうまくいったことやいかなかったこと、得意なことや苦手なこと、働く中で起こりうることなどの就労者自身の特性を伝えています。そのときに、ご本人が自分の特性をまとめた「ナビゲーションブック」や、支援者が作成した「サポートブック」を渡し、職場の皆さんにも一緒に働く準備をしてもらいます。

また、しばらく働いていくと、うまくいかないことが出てきたり、仕事に慣れてできる仕事が増えたりすることもあります。どうすれば働きやすくなるか一緒に考えていただくことが、継続して共に働くことにつながります。



新たに取り組んでいる事業について教えてください。

今年度、県の委託を受け、障がい者の短時間雇用促進モデル事業に取り組んでいます。これは、1週間に20時間未満でも働ける場を広げる事業です。働きたいという意味はあるけれど20時間以上働く

ことは難しいという人でも働ける場をつくれるように企業に働きかけています。

就労移行支援事業によって就労した人が、どのように働いているか教えてください。

私が担当していた人で、約2年前から市内で給油所などを経営する企業で働いている人がいます。今では、職場になじまれています。それまで実習に行ったところでは、どの職場にもなじめず就労にはつながりませんでした。ご本人に話を聞くと、学校での人間関係がうまくいかなかった経験から、同世代の人との関わりが苦手なことが分かってきました。



北川ゆかりさん

そこで選んだのが今の職場です。職場は年上のパソコンに精通した人ばかりで、仕事もご本人が得意なパソコンを使った業務だったからです。ご本人は、採用が決まって、いつから働けるかと聞かれたときには、「明日から働きたいです」と答えたそうです。今も、「働くのは楽しいです。ここでの仕事を続けていきたいです」と言っています。

社長も含め職場の人たちは、障がいのある人と一緒に働いたことがなく、戸惑いもあったそうです。でも、一緒に仕事をし、彼のことを知っていくうちに、職場の仲間として信頼して仕事を任せられると感じるようになったそうです。

コミュニケーションが苦手な彼ですが、職場の皆さんに出会って、会社の食事会に参加したり、給料で買った自転車の話をしたりするようになったと聞き、ご本人にとって職場が安心できる居場所になっているのかなと感じています。

★取材者の感想★ 集う場や共に働く場を意図的につくるのが、共に生きる社会を目指す入口になっていくのだと感じました。私も、日常生活の中でいろいろな人と関わり合い、互いのことを知り合うことを通して、多様な人が分け隔てられることなく、地域の一員として当たり前存在し共に生きられる社会(インクルーシブ社会)をつくっていく一人でありたいと思います。